

～ 海の蔵から里山の蔵へ。そして日本中、世界中に愛され、感動される蔵へ～

新社長へバトンタッチ



けどういん便り

2024年3月号
祁答院蒸溜所
鹿児島県薩摩川内市
祁答院町蘭牟田2728-1

踊るダイコン

車を走らせていたら、蔵から15km程離れた地域、祁答院町上手の畑に、形の悪いダイコンに表情豊かな顔が描かれ、道行く人を、楽しませていました。ダイコンの形に合わせて、笑った顔や怒った顔、すました顔があり、今にも動き出しそうでした。



ちようと写真を撮らせてもらっていたら、このダイコンを掘り上げた方（近くの農家、柿村壽郎さん）にお会いでき、「次から次に出てきて驚いた。全部で13本あった」と仰っていました。この日は雨模様だったため、顔のインクが流れないようにビニールをかぶせてありましたが、わざわざ外していただき、ダイコンの表情に癒され、人の優しさに触れた日でした。（坊野）

世界一のふるさと

蔵から車で2、3分の距離に、「世界一郷（ごう）水車」があります。

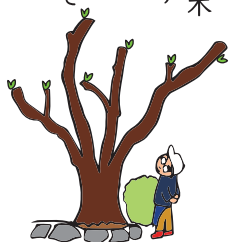
高さは約13mで、間近で見るととても迫力があります。実はこの水車、たしかに大きいですが世界一大きいわけではない。完成した当時から、これよりも大きい水車がありました。



では何が世界一なのか？。それは「世界一『郷』水車」、つまり世界一のある水車という意味なんです。そういうわけで大きさは世界一でなくても、祁答院の住民にとって『世界一の故郷』にあるため、「世界一郷水車」という名前になったそうです。（油田）

蔵のシンボルツリー

祁答院蒸溜所には、サクラをはじめ椿やツツジなどさまざまな植栽があります。その中でも私のお気に入りには、「センダンの木」です。5月頃に淡い紫色の花を咲かし、花が散ると地面一面が雪景色のようにも見えます。



そんなセンダンの木は、大きくなりすぎたこと倒木の恐れがあることから幹を残し剪定されました。寂しい気持ちになりましたが、ふと見上げると新しい芽吹を見つけたことができました。また、花を咲かせ蔵のシンボルになることを願っています。（東園）

1年生

今年の4月で入社1年を迎えます。

入社当時は右も左も分からず、ただただ先輩の真似をする毎日でしたが、今

はとても刺激的な毎日をご一緒に過ごしています。自分の知らなかった事を知ることの楽しさ、何となく飲んでた焼酎の製造工程を知る事で、晩酌する時の味わいの深さが違ってまいりました。まだまだ知らないことだらけなので、もっと焼酎の知識を増やしていきたいと思っています。（豊田）



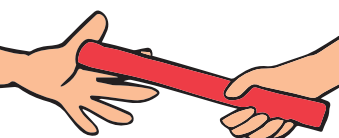
社長交代

祁答院蒸溜所は、古屋明子専務（前社長の長女）が、2024年1月4日付で5代目社長に就任しました。古屋芳高前社長は、相談役になりました。

2007年に飴島青瀬地区から、祁答院町蘭牟田地区に蔵を移転。

芋焼酎蔵として日本で初めて「木桶仕込み」を導入。手造り麹、木樽蒸溜、洞窟貯蔵と合わせてオンリーワンの焼酎造りに挑戦してきました。

これからは、新社長のもと、「新しい道を切り開き」、日本はもとより世界の皆様に愛され、感動される焼酎を造り続けたいと思います。どうぞ、お力添えをお願いします（蔵人一同）



短信

私の最近の楽しみは、小学生の息子の笑顔を見ること、食べることです。

仕事の方は、入社してまだ日が浅いせいか、体力を消耗する場面があったり、日々覚えることが多かったりと苦勞もありますが、ここを何とか乗り越えて3つめの、楽しいこと、にできればと思っています。

自分の仕事ぶりが焼酎の味を左右するということ責任感を持ち、取り組んで参ります。（枝元）